

新年のご挨拶 関勝四郎会長より

平成26年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年11月の内閣府月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料では、「現状景気は緩やかに回復しつつあり、物価もデフレ状況ではなくなりつつある。先行きについては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。」との見解が示されております。

また、日本銀行の企業短期経済観測調査(短観:12月調査)では、円安定着で輸出企業のマインドや収益が改善していることを背景に、大企業・製造業の景況感が4期連続で改善し6年ぶりの高水準となり、中小製造業の景況感も6年ぶりプラスに転換したと報告されています。

さらに、地域経済報告(さくらレポート10月)でも各地の景気情勢を前回(7月)と比較すると、国内需要が堅調に推移し、生産が緩やかに増加している中で、雇用・所得環境にも改善の動きがみられていることから、全地域で判断を引き上げるとの報告がありました。

このように各方面からのマクロ経済指標では、景気に追い風がふいていることが示されております。

日本RPF工業会では設立直後よりプラスチック製容器包装の入札制度の適正化を図るべく政府機関への嘆願活動を行ってまいりました。昨年9月より経済産業省と環境省は容器包装リサイクル法の見直しに向けた産業構造審議会と中央環境審議会の合同会合を開催しておりますが、その会合に当工業会もオブザーバーとして参加し、RPF手法での入札参加資格を得るべく提言を行うに至りました。

また、当工業会は昨年5月には「2013NEW 環境展」に出展し、9月には専門部会「技術・品質委員会勉強会」を実施し、11月には第一回工場見学会を実施するなど工業会としての活動を進めてまいりました。本年においても、さらなる活動の充実を図るべく尽力してまいります。

さて、本会も設立されまもなく二年を迎えます。役員改選の年に当たりますが、任期満了まで会員の皆様の一助となるべく、粉骨砕身務めてまいります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位のますますのご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



第一回工場視察見学会 見学レポート

去る2013年11月29日 第一回工場見学会を実施いたしました。

ご多忙の中、多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

今回は、工場見学を受け入れていただきました、エビス紙料株式会社代表取締役 海田周治様、並びに参加いただきました株式会社関商店 副工場長 吉田潤様からの感想をご紹介します。

「第1回工場見学会」を終えて

エビス紙料株式会社 代表取締役 海田周治

技術・品質委員会主催の第1回工場見学会を私どもの2工場（愛媛工場、四国工場 RPF 製造）と大王製紙様の三島工場で催すことができましたこと、そしてたくさんの会員の参加をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、無事終了してほっとしております。特に大王製紙様には、工場見学と資材、ボイラー関係者との質疑応答の場を設けていただきましたこと熱く御礼申し上げます。

私どもの不手際もございましたが、参加された正会員・賛助会員の皆様のご協力で予定通りに進行することができました。内容的には、専門部会として重要な電力の遠隔監視や防火対策について弊社工場をモデルにご案内・ご説明することができました。

大王製紙様はさすがに工場案内でのスムーズな車両誘導や分かり易い表示や説明で皆さん納得のご様子でした。また、見せていただいた最新の抄紙機・N10マシンには言葉不要の圧倒的な存在感がありました。質疑応答の中では、RPFの品質の重要性を再認識するとともに工場のエネルギーの使用量の大きさには驚きでした。

次回の工場見学では、企画に合わせて人数を制限して募集することや、人数が多いと騒音のため工場内の説明は難しいこと、バスを使うと移動中に説明ができて便利などを考慮する必要を感じました。

今後、委員会として、技術・品質のレベルアップを図り、また親睦を深めることができるよう「見学会」を継続したいと思います。委員会から見学の問い合わせがあれば積極的に協力をお願いします。

こうした交流の中での切磋琢磨や情報交換がRPF業界の発展に繋り、ひいては日本RPF工業会が微力ながらも日本経済の原動力のひとつとなるようこれからも務めて参る所存です。

株式会社関商店 茨城工場 副工場長 吉田 潤

先ず初めに、今回の工場見学会を開催されるに当たり、企画運営に諸々の御尽力賜りました、エビス紙料株式会社様並びに技術・品質委員会の皆様様に心より御礼申し上げます。

今回は（一・社）日本RPF工業会で初めて開催される工場見学会であり、且つ普段であればほぼお邪魔する機会が無いであろう（茨城から見れば）遙か遠く四国のRPF工場を見学させて頂けるという事で期待に胸を膨らませ参加させて頂きました。

見学会当日は大凡「温暖な瀬戸内」のイメージとは大きくかけ離れた寒空に身を引き締められながら臨み、エビス紙料様の愛媛・四国両工場では防火設備のその充実ぶり、防火意識の高さに、数多くの学ぶべき点を見つける事が出来ました。大王製紙様三島工場様では抄紙機のスケールの大きさに只々圧倒されながらも、質疑応答における先方現場御担当者様よりの塩素等に係る品質向上の協力依頼に、RPF製造業者として品質向上の重要性を再認識致しました。

また、一連の行程中に同業の各社様と様々な意見交換をさせて頂いた事は誠に有意義であり、この機会を設けて頂いた関係者の皆様方に改めて御礼申し上げます次第でございます。

参加された皆様、お世話になりました誠に有難うございました。そして、お疲れ様でございました。

以下をクリックしますと工業会ホームページの開催報告をご覧ください。ぜひ、ご参照ください。

<http://www.jrpf.gr.jp/20131129kengaku.html>



工業会 活動報告

■「容リ法制度見直し」を検討する政府審議会でのRPF工業会のプレゼンテーション報告

政府は「容器リサイクル法制度」の見直し検討を専門的な調査・審議を行い進めるという観点から9月19日より審議を進めてきました。すでにご案内かと存じますが、RPF工業会はオブザーバーとしてその審議会に加わりました。10月15日からは関係業界のプレゼンテーション（テーマは「容器包装リサイクル法改正に向けた提言」、持ち時間15分）と委員からの質問という形式でのヒヤリングが実施され、12月19日の第5回目のヒヤリング会合では日本RPF工業会もプレゼンテーション（提言発表）する機会を得ることができました。なお、審議会は経済産業省の下の産業構造審議会産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会 容器包装リサイクルワーキンググループ（郡嶋座長、委員26名）と、環境省の下の中央環境審議会循環型社会部会 容器包装の3R推進に関する小委員会（永田座長、委員26名）との合同会合として進められてきました。

今月の会報では当会のプレゼンテーションに関して報告いたします。次回からは何回かに分けて他の関係業界のプレゼンテーションを報告し、審議会の全体像、他関係業界の主張などをお伝えできればと思います。会員各社様の今後の方策などにお役立ていただくとともに、各社様には審議会にご興味をもたれ、当会の立ち位置、活動などについてご助言、ご意見を賜ればありがたく存じます。

当日は石谷事務局長のプレゼンテーションに先立ち、海田常務理事より審議会にオブザーバーとして加えていただいたことの謝辞に続き、プラスチック製容器包装再商品化への一般枠での入札参加をRPF手法にも開放するように提言されました。石谷事務局長からのプレゼンテーションでは容リ制度におけるRPFの実績と制度への貢献（紙製容器、プラ製容器の残渣物のリサイクル）、JIS化された工業製品固形燃料としての産業界への経済的・環境的貢献などが紹介され、既存の再商品化手法に比べトータルコストが低く、再商品の社会的価値も高い再商品化手法として一般枠での入札をRPF手法にも開放することが提言

されました。

これに対し、委員からは自治体による分別コストの削減がRPF手法では実現できるのではないかとの意図から、「自治体ペールはAランクペールでなくとも十分な再商品化ができるのか？」という質問がありました。RPF手法ではAランクペールでなくとも対応は可能と回答し、言い換えれば、自治体分別での残渣比率を下げられ、家庭での分別努力を無駄にすることなく再商品化できると示しました。また、熱収率が石油と比べてどの程度かという質問には適切な回答をすることができず、化学技術面での当会の知見不足が見受けられました。

委員の中にはRPF手法にご理解を示す方もおり、また、再商品化費用、自治体への拠出金を負担する特定事業者もRPF手法を支持しています。マテリアル再商品化手法とケミカル再商品化手法が激しくせめぎあう中で、いかにRPF手法を支持する方々の声をまとめていくかが今後の課題となります。（瀬田英博）

賛助会員ご紹介

日本RPF工業会 賛助会員のご紹介



『RPF成形前処理破碎はホーライ』

ホーライは、1949年の創業以来半世紀以上にわたって粉碎・破碎のエキスパートとして技術を磨いて参りました。特にRPF成形においては、成形の前処理にあたる破碎、選別といった工程が最も重要な鍵となって参ります。ホーライでは「最適に砕く」を信念に、業界トップクラスの製品群でRPF事業者様それぞれの目的や特性に合致したベストなプランをご用意いたします。また、破碎機を中心として選別、輸送、貯留、供給といった周辺機器も承ります。

テスト機も多彩なラインナップにて取り揃えておりますので、最寄の営業所までお気軽にご相談ください。



■お問い合わせ先 株式会社ホーライ

URL:<http://www.horai.co.jp/>

上記ページよりお問い合わせできます